

分野： I 小児・成人ぜん息に関する調査研究
② 重症ぜん息患者の増悪予防策

I-②

委託業務名：成人重症ぜん息における生物学的製剤の治療実態と効果予測因子に関する長期的検討

調査研究代表者氏名：長瀬 洋之

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(3) 研究計画の妥当性	5人	1人	0人	0人	0人	4.83
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.75
(6) 総合評価(第2評価)	6人	0人	0人	0人	0人	5.00
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.83

2 記述評価
・長期的効果、とくにRemodeling への効果がどうかについて成果が期待される。 ・季節性AR、通年性ARの合併が高いので、これらに対する検討は有用であろう。 ・研究の精度を上げるため参加施設別に質的検討が必要である。 ・研究の計画は妥当でその成果の解析とまとめも優れており、さらなる発展を期待したい。Dupilumab (Dupi) が多くの症例で第一選択薬として位置づけられる結果が明らかになっているが、好酸球増多の程度によってはDupiからの開始後に好酸球増多を助長するが、その事へのコメントやDupiの効果の先に必要と考えられるunmet needsにも触れて欲しい。DNAの収集とその解析に関しても期待したいと思う。 ・大変興味深い成果が得られることが期待できる調査研究である。更なる症例の集積が望まれる。 ・生物学的製剤の治療実態と効果予測因子等に関する重要で有用な研究である。 ・環境保健の本プロジェクトで、本研究での更なる成果が得られることを大いに期待する。 ・Dupi、Omaをはじめ種々の生物学的製剤の位置づけが明らかになりつつあることは極めて有用である。 ・生物学的製剤は、成人重症気管支喘息のマネージメントに相応の寄与を果たしているが、5種の薬剤の相互比較検討の知見はほとんどない。本課題は、ベストレスポンスを得るための貴重な情報を示している。 ・研究が適切に進捗していると評価できるが、研究期間が5年間であるので、目標達成に向けてより適切な進捗管理が望まれる。 単なる症例データの統計解析に留まることなく、治療ガイドラインにベースとなるエビデンスを創出することを期待する。